

## ごっこ遊びの指導

前回の終りに、ごっこ遊びの意義について述べたが、今回はごっこ遊びの指導について紹介する。

## ごっこ遊びのための準備

ごっこ遊びのための準備として、教師はまず第一に、子どもの遊びの意欲を刺激せねばならない。第二に、教師はごっこ遊びに導くような材料や設備を環境の中におくことが必要である。第三に、教師は子どもの身体的、社会的、知的、情緒的発達が促されるように活動を指導することが必要である。

見学は、しばしば、価値のあるごっこ遊びに導く。たとえば、ハンやさんがどこからパンをもってくるのかを知らないために活動が発展しないときには、ハン工場を見学することが役に立つし、飛行場を見学することは飛行機の活動を発展させる。

ごっこ遊びは、書物や映画のような代理経験によっても刺激される。また、子どもが興味をもっているしごとに従事している人の話をきいたり、会話をかわすことによ

って、ごっこ遊びが発展することもある。

ひとたび、子どもがある経験を「ごっこ遊び」によって再現しようという意欲がでてきたら、次には、教師の責任は、空間をつくり、材料を与え、時間を与えることである。どの程度にどうするかということ、子どもの発達段階と、その経験の種類によって異なる。「ごっこ遊び」は室内でも屋外でもなされる。そしてリズム遊びや、製作、話し合いなどが十分になされるように空間をとる必要がある。子どもたちのつくった大きなしつらは、子どもが変えたいと思うまでとっておくのがよい。港や町がその場所にとっておかれることによって、「ごっこ遊び」は永続し、動的に変化する。このようなしつらえを毎日こわしてしまふことは、子どもたちの意欲を喪失させることである。その活動に対する興味を失わせることになる。「ごっこ遊び」の中のアイディアを遂行するためには、適当な材料が必要である。年令の小さい子どもには、とくに、床上積木、大小の箱、いろいろの大きさの板、

床の上の玩具が役に立つ。成長するにつれて、材料の種類も増してゆく。つみきは最も多く用いられる材料であるが、形を保存しておくことができないので、七歳をこえるとあまり用いられなくなる。戸外で、板や箱や樽をつみ重ねることの方を好むようになる。ごっこ遊びにはおうちごっこのコーナーが役に立つ。家具、皿、台所道具、掃除道具、電話、人形などが備わっているのがよい。

### ごっこ遊びの指導

ごっこ遊びそのものが教育的価値をもつものであり、教師の側の指示などはあまり必要のないものである。しかし、教師の指導によって、ごっこ遊びは発展し、意味を増してくる。どのようにしてごっこ遊びがはじまり、どのように助力を与え、どのように評価するかということ、教師の非常に関心をもつところである。一般的に言って、子どもの興味を刺激するような機会を与え、子どもの必要とする材料と設備を与える以上の指導は必要ない。そこに使え

る材料があるということを暗示するだけで、たいがい五歳児、六歳児、七歳児、八歳児は活動を開始する。しかし、たいがいのグループに、始めはごっこ遊びに参加しない子どもがいる。このような場合、教師は遊びを強制するのではなくて、何か他の活動をみつけてやるのがよい。あるいは、遊びに必要なもので、その子の作れるものを見つけてやるのもよい。そのような子どもも、ひとたび参加しはじめれば、それが他の子と違ったようなことであろうとも、その活動に没頭するものである。

ごっこ遊びが始まったら、教師は二つのことを念頭においておくがよい。第一は、子どもの経験が、彼らにとって満足のゆくものであるように、じやまにならないようなやり方で子どもの活動を指導すること。第二は、これから先の探索の可能性に注意することである。教師は子どもたちが知識を必要とするときにそれを与え、また他のことがらに気づかせる。けんかが起るときにその解決の助けをする。ときどき、遊び

を中断させて話し合いをさせ、混乱している問題の解決をする。ごっこ遊びの後には子どもたちは自分たちのおもしろかったことを話したがるものである。いっしょに話すときには、彼らのぶつかった困難が話され、それをのりこえるための計画が立てられる。教師は子どもたちがそれぞれの経験を話すのに満足を感じるように話し合いを指導する。また、これから先にやることについて注意を集中するのを助ける。また、新しい必要を意識するように助ける。遊びの中に必要が感じられ、話し合いを通してそれが意識されるときに、経験の系列は推進され、ごっこ遊びは目的をもち、意味をもったものとなってくる。教師が話し合いと問題解決において果す役割は大きい。

### 六才児のごっこ遊び

次に示すごっこ遊びの例は、一年間のいろいろな時期にあらわれたものである。一

つの中心的興味が次第に支配的になり、時がたつにつれて他の活動がすてられてゆく過程を示している。一年の最初は、教室はいくつかの興味の中心を設けられていた。

港の場所には曳船と二隻の貨物船と、三隻の客船と一隻のタンカーがおいてある。つみきが四角く並べられてドックになっている。空港の場所は、港とはつみきで仕切られて、数個の飛行機がおいてある。管制塔はつみきでつくられ、貨物自動車がおいてある。町の場所には二つのおうちと、家具をいれたみかん箱がある。それぞれの場所で数人以上の子どもたちが遊んでいたが、はじめのうちは相互には交流はなかった。日がたつにつれて、遊びは次第に船に集中し、港はいろいろの型の船ができた。空港は次第に興味が薄れ、おうちごっこは港とともに発展した。

港の場所にはいくつもつみきの棧橋がつくられ、ドックのそばには倉庫がつくられ、切符売場、灯台、岩などがつくられた。教室の反対側にもう一つ港がつくら

れ、それは中国の港となった。こちら側の港はサン・ベドロで、そのそばに六軒の家がつくられた。八百やがつくられ、粘土の食物が売られた。みかん箱でガソリンスタントが作られた。そして、それぞれの間を子どもたちはいったりきたりした。

活動が進むにつれて、子どもたちの遊びはより協力的になり、それぞれの子どもは新しい必要を感じるようになった。港は発展し、町も発展した。その学期の終りころになると、港で遊ぶ子どもが少なくなり、町の方がより発展してきた。十軒の家がつくられ、道路とはつみきで仕切られていた。道路には交通標識が立てられ、ポストが立てられた。ドラッグストアがつくられ、劇場、銀行、郵便局、警察、パンや、バスの終点、ホテル、駅、教会、公園がつくられた。バスの時間表がつくられ、公園に遠足にゆくなどの活動もあらわれた。子どもたちは、銀行の閉店時間、劇場の時間なども調べた。このようなうちは、たいがい、子どもの背の高さの柱で仕切られ、み

かん箱などをつんで店とし、何週間も固定してとっておいて、いつでも遊びのつづきができるようにしてある。遊びのこまかい進展については省略する。

### 七才児のごっこ遊び

次に示す七歳児の遊びは、パンがどのようにして作られるかという研究を發展させた遊びである。遊びは二つの段階に分けることができる。最初の段階の遊びでは、地域社会がどのようにして食物を得るかというところに、子どもたちが理解と興味を示す。第二の段階では食物を作る過程に興味を示される。第三の段階では、食物の製造と分配について、他の地域社会との関連を理解する。

地域社会には次のようなものがつくられた。働く人の住む三軒の家、やおや、ガソリンスタンド、小麦の袋をつんだ汽車、バスの配達トラックなど。もう一つの中心は、芸術コーナーで、イーゼル、粘土机、図書机などがある。それから調べる材料をおいた科学の机と、楽器をおいた音楽の机

がある。最初の日には、十人の子どもが本をみたり、粘土をつくったりし、十五人の子どもが積極的にごっこ遊びに参加した。

八週目の終りには、パン問屋、パンの小売店、小麦工場、銀行、貨物の駅、農場が作られた。小麦を運ぶ汽車が作られた。子どもたちは実際にパン問屋と小麦工場を見学し、パンの製造の映画をみた。またパンやとおやに面接し、パンについての本を読み、小麦を栽培してみた。彼らの興味の中心は、パン問屋とパンを店から家に配る過程と、小麦がパンやにゆく過程にあった。すべての子どもがパンやをめぐるごっこ遊びに参加した。

十二週目に、パンの小売店に見学にゆき、自分たちでもパンやをつくらうと考えた。そして数人の子どもが入って働けるくらいの大きさのパンやを作ることを計画した。この時の活動は、彼らが地域社会の機能を理解していることを示している。グループの各員が、責任ある働き手として、また協力的なメンバーとして参加した。

農場から小麦を積荷した。

汽車がそれを小麦工場に運んだ。

小麦工場ではそれを粉にひいた。

トラックが小麦粉をパンやに運んだ。

パン問屋はパンを焼いた。

パン小売店はパンを客に売った。

警官は交通整理をした。

銀行はお金を処理した。

主婦は家を掃除し、パンを買った。

話しあい

話しあいは、目的をもった活動をすすめるのに重要な役割をはたす。話しあいによって、子どもたちは共通の目標を意識し、それに到達するのに必要な知識を交換する。話しあいの間に、教師は、子どもたちが必要な道具や材料をもっているかどうかをたしかめ、また、しごとをはじめの前に解決しておかなければならない問題があるかどうかを注意する。学期の始めには、計画のための話しあいの時間はかなり長く必要だろう。興味が発展するにつれて、話しあいの時間は次第に短くなる。しかし解

決しなければならぬ問題が生じたときには、子どもたちがなっとくするまでじゅうぶん長く話しあいをする必要がある。

### 問題解決

遊びやしごとが進むにつれて、その発展を妨げるような困難が生じてくる。このような場面は、きわめて重要な教育の機会である。教師がこのような場面をどのようにとり扱うかによって、子どもの問題解決の能力が伸びるのである。ごっこ遊びの中には問題解決の場面が豊富にある。教師はこれを教育の機会として活用することを考えなければならない。

(津守)

Teacher's Guide To Education. In  
Early Childhood. Compiled by the  
Bureau of Elementary Education,  
State Department of Education  
California State Department of  
Education, Sacramento. 1956

「カリフォルニア州教育局初等教育部編  
教師のための幼児教育の手引き」より